

水平社宣言に“仲間集団づくり”で応えてはならない  
 ～「差別者としての立場の拒否」という価値観・精神～



# 夏季セミナー

# 府立人研だより

7月27日(水)・28日(木)

大阪府立学校人権教育研究会事務局  
 2022年7月1日 第5号発行

## ◆会場のご案内◆

### ◆大阪市立住まい情報センター 3階ホール

- ・大阪メトロ谷町線・堺筋線・阪急千里線  
 「天神橋筋六丁目」駅 3号出口直結
- ・JR環状線「天満」駅より北へ約600m



### ◆大阪府教育会館たかつガーデン

- ・近鉄線「大阪上本町」駅／大阪メトロ谷町線・千日前線「谷町九丁目」駅 2号出口(近鉄①番出口)より北東へ約200m



※ 両会場とも駐車場がありませんので、自動車でのご来場は固くお断りします。  
 また、会場への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

## ◆参加お申し込みについて◆

- 1 資料代として当日2,000円が必要です。
- 2 申し込み方法  
 【別紙】参加申込用紙を、FAX(06-6324-3822)またはメール(furitsu-jinken@nifty.com)で7月15日(金)までにお送りください。

※各分科会会場には定員があります。申し込み状況により、希望の分科会にご参加いただけない場合があります。その際には、事務局から連絡をさせていただきます。

## ◆お願い◆

当日は名札をお持ちください。



## 7月27日(水) 第1日

	9:30	10:00	12:30	13:30	14:00	17:00
内容	受付	全体会	休憩	受付	分科会	

会場 大阪市立住まい情報センター  
 各セミナー：大阪府教育会館たかつガーデン  
 校長部会：大阪市立住まい情報センター

## 第1日 午前 全体会

	全体会	大阪市立住まい情報センター
7/27 (水)	<b>水平社宣言に学ぶ</b>	
	講師：友永 健三さん(一般社団法人部落解放・人権研究所 名誉理事)	
全体会	日本で最初の人権宣言と言われる水平社宣言は、それがマイノリティ自身によって起草されたものであることに歴史的意義・特徴があります。この宣言において特に注目すべき箇所として講師の友永健三さんは次の2点をあげておられます。 1点めは「人間は勤(いたわ)るべきものでなく尊敬すべきものだ」という部分、2点めは「人の世の冷たさがどんなに冷たいか、人間を勤ることが何であるかをよく知っている吾々は、心から人生の熱と光を願求礼讃するものである」という部分です。この2つに共通する人間に対する絶大なる信頼と人権が保障された社会の建設に向けた決意と覚悟こそ、水平社宣言のすばらしさだともいわれます。	
10:00   12:30	水平社創立100年を迎えた本年度の夏季セミナーを友永健三さんの講演から始めることで、水平社宣言の意義と普遍性・先進性について、またそこに端的に表現された「差別者としての立場の拒否」(＝拒否し、あらゆる差別と闘うことを通しての人間としての誇りの獲得)という価値観・精神について学び直していきたいと思ひます。	

第1セミナー（教材部会×性差別撤廃教育チーム）

たかつガーデン

教材づくりに対する思い ～性別思い込みあるある～

講師：新設Cチーム企画

教職員なら誰しも困りがちな教材づくり、これを読んでくださっているみなさまも「なんかいい教材あったらいいのになー…」と思ったことはないですか？ 今回の教材部会では性差別撤廃教育チームとコラボし、性的マイノリティに関する教材を数多く作成している「新設Cチーム企画」から、それぞれの教材を作ったときのエピソードや教材づくりに対する思いを語っていただきます。また、後半では教材交流を通じて意見交換していけたらと考えています。

7/27  
(水)

第2セミナー（ケーススタディ部会）

たかつガーデン

生徒につなぐ活用実践 ～SSWに学ぶ「気づく力」～

講師：三木 泉さん（スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー）

分科会

14:00

17:00



今年度から全校でSSW（スクールソーシャルワーカー）の活用が可能になりました。今回の夏季セミナーでは、事例検討のワークショップを通じて、ケース会議でのアセスメントやプランニングを体験し、気づく力を高めたり、SSWと協働していく大切さを学んでいきたいと思います。今後の生徒対応に向けてヒントとなることや、活用できる知識も得ることができるはずです。生徒たちがより安心して学校生活を送ることができるよう、SSWも含めて学校全体で支えていきましょう！ たくさんの方のご参加をお待ちしています。奮ってご参加ください！ どのような支援が大切かを交流しながら考えていきたいと思います。他にも悩まれていることがあればケーススタディ部会へ！

第3セミナー（部落問題学習チーム）

たかつガーデン

部落問題学習まるかじり ～教職員研修から人権ホームルームまで～

報告：中央聴覚支援学校、松原高等学校、府立人研「部落問題学習」チーム

「部落問題を扱う人権ホームルームを実施したいけれど、自分の学校では難しいなあ…」、「他の学校ではどんなふうに取り組んでいるんだろう？」など、部落問題学習の計画・実践に悩みをかかえておられるみなさん！ 部落問題学習のヒントをつかみに来ませんか？ 複数の府立学校の実践報告やワークショップを通して、たった3時間で部落問題学習をまるかじりできる企画です。教職員研修・人権ホームルームに活かせるコンテンツを用意しています。教職経験の少ない方をはじめ、部落問題学習を実施していきたいとお考えのみなさんのご参加をお待ちしています。

校長部会

大阪市立住まい情報センター

7/27  
(水)

人権をめぐる学生の意識状況と意識変容の方向性

講師：和田 良彦さん（四天王寺大学 副学長・教授）

14:00

17:00

大学での授業「人権教育論」内で実施した取り組みや学生アンケートをもとに、人権に関する学生の意識状況と意識変容をめざした実践について報告を行います。

高校卒業後の学生の人権に関する意識状況を踏まえ、府立学校における人権学習実施計画等を作成する際の参考にしていただければと思っています。



大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内

（通便は「府立人研」とお書きください。）

TEL・FAX 06-6324-3822（直通）（お電話の場合は、火曜日をお願いします。）

Mail furitsuinken@nifty.com（お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。）

URL <http://furitsuinken.in.cocacn.jp/>



↑府立人研HPも  
チェックしてくださいね

7月28日(木) 第2日

9:30 10:00 12:00 13:00 13:30 15:00 15:20 17:00

内容	受付	全体会	休憩	受付	分科会 I部	休憩 移動	分科会 II部
----	----	-----	----	----	-----------	----------	------------

会場 大阪市立住まい情報センター

各工房：大阪府教育会館たかつガーデン  
教頭部会：大阪市立住まい情報センター

第2日 午前 全体会

7/28 (木) 全体会 10:00   12:00	全体会	大阪市立住まい情報センター
	<b>ペアレントクラシー時代における教育格差の克服</b> 講師：志水 宏吉さん (大阪大学 教授)	
	大阪では「しんどい子どもを中心にしたクラスづくり」を目標とし「しんどい子ほど時間をかける」のは当然と考える傾向があります。講師の志水宏吉さんは、それを「公正原理」に即した「実質的平等」をめざす教育と呼んでいます。「差別を見抜き、差別とたたかう」「ちがいを豊かさに」「ともに生き、ともに育つ」というローカルな言葉で語られる教育の理念を世界標準の言葉でまとめるなら「公正」になる、実質的平等に価値を置く大阪の人権教育実践は世界標準に位置づけることができる、と。 それと同時に、現在大阪の府立高校が置かれた状況について志水さんは「卓越性原理(上位層を伸ばす、平均点を高める)ばかりが重視され、公正原理(しんどい層をささえる、格差を縮める)は顧みられないことがない」と言われています。その志水宏吉さんからお話を聞くことで、大阪で自分たちが日々実践して(しようと)している教育の営みを「世界の標準語」で一旦相対化し、我々が一貫してすべての子どもたちの人権保障のために取り組んできた事実を再確認しながら、これからもまっとうな公教育のど真ん中を誇りと確信をもって進めていく活力を得られるような全体会としたいと思います。	

第2日 午後 分科会 人権教育実践・入門セミナー及び教頭部会

7/28 (木) 分科会 13:30   17:00	第1工房(進路保障部会)	たかつガーデン
	<b>学習指導要領の理念を絵に描いた餅に終わらせないために</b> ～小中学校における様々な先行事例をヒントに～ 講師：佐久間 敦史さん (大阪教育大学 准教授 地域連携・教育推進センター 副センター長)	
	コロナ禍で社会の極端な格差化や貧困化が浮き彫りとなりました。その中を生きる子どもたちにとって人権教育は、生涯を通じて学び生き続ける力を与えるものでなければなりません。講師の佐久間敦史さんは、特に小中学校の人権教育についての造詣が深く、また学習集団論を研究分野とされています。今回は、学習指導要領の理念を絵に描いた餅に終わらせないために、また学び続け生き続ける力を与える、つまり進路を保障する人権教育を実践するために必要な視点やヒントについて、小中学校における実践例を交えながらお話いただきます。様々な教材づくりの参考にしていただけたらと思います。この機会にぜひ、学びの公共性について一緒に考えましょう。	

7/28 (木) 分科会 I部 13:30   15:00	第2工房(多文化教育)	たかつガーデン
	<b>異なる価値観との共存</b> ～カナダの多文化主義の挑戦『虹の戦争』から考える～ 講師：富岡 美知子さん (異文化コミュニケーション学会・多様性研究会 LiDi 共同代表)	
	「多文化共生」をイメージするとどのような場面を思い描くでしょうか。さまざまな民族の人たちが笑い合っているイメージを多くの方は持たれるのではないのでしょうか。しかし、社会を構成していくには、個人と個人、集団と集団の価値観の対立がおこる可能性があります。文化的・社会的背景が異なる人たちと建設的な関係を築くためにはどのようにすれば良いのかをこの工房では考えていきたいと思います。総務省が出している日本の人口推計には国内滞在期間が3カ月を超える外国人も含まれるため、日本国籍でなくても日本の人口として数えられる人たちがいます。これからも増えていくと考えられる外国籍・外国にルーツがある生徒や保護者とともにこの社会で安心して生活を送るためのヒントを、講演やワークショップを通して考えていけたらと思います。	
	第3工房(性差別撤廃教育)	たかつガーデン
<b>教材を体験しよう！ ～性別思い込みあるあるを通して～</b> 講師：新設Cチーム企画		
2日めの性差別撤廃教育チームの工房では、1日めの教材部会でも講演していただく新設Cチーム企画の方が再度登場。1日めとは多少テイストを変えて、新設Cチーム企画が作成した教材を用いた模擬授業を行っていただきます。どんな気持ちで生徒たちは授業を受け、授業を通じて生徒たちの気持ちはどう変化したのかも想像しやすく、自校での取り組みにもご活用いただけるような企画です。1日めの教材部会と合わせてのご参加でも、2日めの本工房のみのご参加でも楽しめる企画となっておりますので奮ってご参加ください！		



7/28 (木) 分科会 I部 13:30   15:00	第4工房 (情報と人権)	たかつガーデン
	<b>サイバーポリスゲーム</b> 報 告：門真なみはや高等学校 GIGA スクール構想と新型コロナウイルスの感染拡大により、府立学校においてはスマートスクール事業による一人一台端末が当初の予定より早く整備されました。これは喜ばしいことではありますが、高校より早く整備されている小学校等では端末を使ったトラブルなども報告されており、情報モラル等の教育の必要性がより重要視されています。本工房ではゲームを通して、ほかの人の意見も聞きながら、子ども自身がSNSについて考えるという実践を紹介していただきます。	

15:00 - 15:20 休憩・移動

7/28 (木) 分科会 II部 15:20   17:00	第5工房 (多文化教育)	たかつガーデン
	<b>マイクロアグレッションへの気づきと克服に向けて ～差別体験授業を通して考える～</b> 講 師：富岡 美知子さん (異文化コミュニケーション学会・多様性研究会 LiDi 共同代表) 「青い目の子はみんな良い子です。青い目の人は5分余計に遊んで良いですよ」 これは約50年前にアメリカのアイオワ州の小学校で行われた、人種差別を考える授業での教師の発言の一部です。クラスのなかで恣意的に優劣をつけた結果、子どもたちがどのような行動を取り、どのような感情を抱くかを体験することで、差別の実態を学んでいきます。この授業が近年、また注目されています。無意識のうちに植え付けられた優劣が差別の根底にあります。これは個人の問題ではなく社会構造の問題であり、それに影響を受けた学校での教師の発言が、アメリカで若い黒人の人生の選択を狭める理由の一つになっているというデータもあります。本工房ではアメリカで行われた差別体験授業を通して、参加者の皆さんにいろんな「気づき」を体験してほしいと思っています。 *当日、差別体験授業の紹介は行いますが、実際に体験授業を行うことはありません。	
	第6工房 (障がい者教育)	たかつガーデン
15:20   17:00	<b>生徒へのより良い支援のアプローチの実践から学ぼう</b> 報 告：東淀川支援学校、緑風冠高等学校 前半は、府立学校に在籍する生徒へのより良い支援のアプローチの実践報告から、「生徒たちがどう成長したのか?」「教職員の意識やアプローチがどう変容したのか?」などを学び、明日からの自校での実践に活かしていただきたいと企画しています。後半は、グループに分かれて、前半の実践報告の内容と関連させながら、各校で生徒や教職員が困っている事例、うまく対応できた事例を、出し合っています。様々な生徒へのより良い支援のアプローチの事例などを情報共有し、参加者どうしてエンパワーしましょう。	
	第7工房 (生徒支援)	たかつガーデン
7/28 (木)	<b>コロナ禍に模索しながら始めた生徒と関わるための取り組み</b> 報 告：大手前高等学校 新型コロナウイルスの流行によって、私たち教職員はこれまでの教育活動のあり方を根本から見直さざるを得ない状況に直面しました。生徒に会うことすらできない日々が続いた2020年春の全国一斉休校時に、なんとか担任クラスの生徒と関われないかとオンラインを活用して「ラジオ配信」を始めた教職員が今回の報告者です。次第に悩みや相談の「お便り」が寄せられるようになり、現在ではカウンセリングの場としても機能しているといいます。「ラジオ配信」をきっかけに生徒とつながり、寄り添いながら支援した経験等も紹介していただきます。本工房では、今この時代を生きる生徒に寄り添うために各々ができることは何なのか、みなさんとともに考えたいと思います。	



7/28 (木) 14:00   17:00	教頭部会	大阪市立住まい情報センター
	<b>だれ一人取り残されない とともに高めあう生徒へのサポート・学校づくり</b> 講 師：糀 秀章さん (宝塚大学)、前田 弦之介さん この2年間、コロナ禍により教頭部会では集合形式での夏季セミナーを実施することができませんでした。今年は久しぶりの集合形式ということで、「今、教頭先生方が現場で困っていること・悩んでいること」を軸にお二人の先生に講演をしていただくことになりました。糀秀章さんより「身近な人権課題」、前田弦之介さんより「LGBTQ ～当事者に学ぶ～」をテーマに講演していただきます。このセミナーで新しい気付き・ヒントがあればと思います。	

\*「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。\*